

安久美神戸神明社本殿（あくみかんべしんめいしやほんでん） 始め 5 棟：建築物・工作物  
 八町通三丁目 17/安久美神戸神明社

平安時代中頃、「飽海」の地が伊勢神宮の神領地として寄進され、天下泰平と神領の繁栄を祈ったことが安久美神戸神明社の創祀と伝えられています。戦国から江戸時代には、城内鎮護の神として祀るため今橋城・吉田城内に社殿が置かれていましたが、鎮座地が陸軍用地となったため明治 18 年(1885)に現在地に遷座しています。大正 12 年(1923)には県社に昇格し、昭和 5 年(1930)には現在の社殿を造営しています。



拝殿



神楽殿

<p>安久美神戸神明社  <small>ほん でん</small>  <b>本 殿</b>                  昭和 5 年建設</p>	<p>桁行三間梁間二間、神明造銅板葺の高床式建物。柱は総丸柱で、内部は北側(内陣)と南側(外陣)の 2 室に分かれ、周囲に高欄付き縁を巡らす。棟には千木と鯉木を上げ、両妻では棟持柱が棟木を支える。伊勢神宮の正殿の意匠に近づけようとする意図が見られる。</p>
<p>安久美神戸神明社  <small>へいでんおよびはいでん</small>  <b>幣殿及び拝殿</b>                  昭和 5 年建設</p>	<p>両側に脇殿を加えた大型の拝殿で、桁行 18.2m 梁間 4.8m を測る。屋根は切妻造銅板葺で、柱は総丸柱。棟には千木と鯉木を上げる。また、後方に一段高く 5.5m 四方の幣殿を張り出し、この大棟にも千木と鯉木を上げる。本殿と共に設計は、内務省神社局の角南隆。</p>
<p>安久美神戸神明社  <small>かぐら でん</small>  <b>神 楽 殿</b>                  明治 18 年建設</p>	<p>桁行 4.5m 梁間 4.5m、屋根は入母屋造及び切妻造棧瓦葺で、正面と両側面は開放される構造で、北側は蔀戸方式となる。舞台に船底天井を張り、鏡板に松を描くなど能舞台の要素を備える。境内に残る数少ない昭和期以前の建物。</p>
<p>安久美神戸神明社  <small>しん こ</small>  <b>神 庫</b>                  昭和 5 年建設</p>	<p>桁行 5.5m 梁間 4.5m、5 棟のうち唯一の鉄筋コンクリート造。屋根は寄棟造棧瓦葺で、正面には向拝が付く。外観は土蔵風で軒反りや隅木を作り、内部も柱型や隅木などを表す。</p>
<p>安久美神戸神明社  <small>て みず や</small>  <b>手 水 舎</b>                  昭和 5 年建設</p>	<p>桁行 3.5m 梁間 2.9m、屋根は切妻造、茅葺型銅板葺。四隅に円柱を四方転びに建て、豕叔首組で棟木を受ける。素木造の直線的で装飾のない意匠であり、境内建物と統一感を持つ。</p>